

木材の現場から 3

藤井正道／有限会社 藤井材木店



本研究では、木の仕事に関わる方々にアドバイスをいただいています。
そんな現場の声を紹介。今回は、広島の藤井さんです。

－次世代に期待することは？

昔と比べると、木製のおもちゃをはじめ、身の回りで木を使っているものが減ってきている。コストがかかるからという理由ばかり取り上げず、ぬくもりや暖かみのある質感の良さなどもしっかりと着目・評価できる大人になってほしい。

－教育機関などに期待することは？

私自身木造校舎で育っていますが、木造校舎のほうが風邪にかかりにくいとか、精神的に安定するなど、さまざまな研究が進められているようで、期待もしている。これから学校建築にはぜひ、暖かみのある空間を増やして欲しい。もっと木を使って欲しいという気持ちと、大切に使って欲しいという気持ちがある。適材適所が、本当に木を活かすことになると思っている。この適材適所がわかる人材の育成を期待する。

－何か木に関する活動のご紹介を。

広島で「緑の少年団」という活動にボランティアで関わっている。これは、全国でそれぞれの地域の特色を生かして、森や緑に関わる活動を自主的に行うもの。皆さん近くでも活動をしているはず、参加歓迎。
<http://www.green.or.jp/junior/katsudou.html> 参照。 (鉄矢)

〈有限会社 藤井材木店〉

東広島市で多様な建設用木材、建材を一覧できる配列で販売。中心は、建設会社・工務店などだが、小売も可。連絡先→082-422-3326。

木活プロジェクト 研究月報

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~w-woods/contact> >>> w-woods@u-gakugei.ac.jp

2005FEB >

09

Exhibition Report 「木の匠と鉄の匠」

株式会社竹中工務店では、「竹中大工道具館」開館20周年を記念した巡回展『木の匠と鉄の匠』を開催している。道具の紹介ではなく、道具を使う人・作る人に焦点をあてた展覧会だ。東京会場は、昨年末にオープンしたばかりの東京本店1階ギャラリー。木材を加工するために初めて使ったとされる縄文時代の石の道具から、名工と呼ばれる大工や鍛冶達が愛用した道具までがズラリと並ぶ。同じ大工という職業でも、集められた道具は三者三様で、それぞれの人や職人としての生き様がそこに現れているようだ。鉋や鑿の表層が、美しい鉛色となっている。他にも、それら道具を用いて作らる組み木や、向こう側が透けてしまっている鉋の削り木、道具そのものをつくっている様子をとらえた映像等を紹介している。小さなスペースながらも、かなりの内容が詰まった展覧会である。(八重樫)

〈福岡会場〉

日時:2005/2/26(土)～3/27(日)10:00～18:00
休日:2005/3/9(水)
場所:TNC放送会館

〈大阪会場〉

日時:2005/4/4(月)～4/23(土)10:00～19:00(予定)
休日:日曜日
場所:明治安田生命大阪

○各会場で、講演会・セミナー・こども体験教室を開催
日程等の最新情報は→<http://dougukan.jp/>

